



2015年度 年主題〈平和をつくる〉

0・1・2歳児 10月主題 「みてみて！」

月のねがい

- ◎保育者や友だちと共に体を動かす喜びを感じる
- ◎自分の思いを伝える
- ◎季節の移り変わりを感じ、身近な自然と出会う

3・4・5歳児 10月主題 「きもちがいい」

月のねがい

- ◎友だちと共にいることを喜び、体を動かすことを楽しむ
- ◎季節の移り変わりを感じ、身近な自然とふれあう
- ◎夢中になって遊びこむ中で、探索や発見、試行錯誤する



「おいしいねえ」といえる形容詞の世界

「おいしいねえ」「きれいだねえ」「気持ちいいねえ」など、3歳になりゆく子どもたちの中に、形容詞の心地よい響きを感じられる時期があります。

言葉が始めた1才児でも、花を指さし「きれい、きれい」と言うかもしれませんが、本当に心を含めて「きれい」と言えるようになるのはやはり3才になってからです。「おいしい」「きれい」などの形容詞は、食べ物そのものの味を感じ、その花の美しさを感じる感情と共に獲得されていく言葉です。そして、このような感情は、子ども一人ではつくることの出来ない力です。おいしいご飯を食べたときに、「おいしいねえ」と言い合える人、きれいな花を見たときに、「きれいだねえ」と言い合える人、そんな関係があつてこそ、つくりだされていくことばの世界です。

「共感する」とは文字通り、「共に感じる」ということですが、常に子どもと同じ視線の高さで、子どもの心の中に入って世界を眺めていると、子どもが感じているであろうことが、自然に大人の口をつけて出てきます。そして、その言葉によって、子どもは自分の心の中の感情を表すことばを知っていくのです。

食欲の秋、読書の秋・・・気候のいい中、いろんな形容詞が言葉として作り出される経験を、園やそれぞれのご家庭の中で、豊かに積み上げていけるよう願っております。

私たちの宝である子どもたちが心豊かに！ 幸せに！ 育っていくよう願っています。



園

今月の聖句

「あなたのめぐみをわたしはたのしみ、よろこびます。」

詩編31:7

イスラエルの王ダビデの詩です。ダビデはその生涯において、神から受けた恵みに対し、心からの感謝を歌にしました。今月のキーワードは「あなた」と「めぐみ」と「喜び」です。

「あなた」とは二人称単数のことばで、相手が近くにいる時この呼称が使われます。たとえば、妻が夫を呼ぶときに「あなた」と呼びます。離れている時に「あなた」とは言いません。もし言ったとしたら、距離は離れていても夫を愛し、夫がいつも一緒にいる実感と共に、呟きとして、「あなた」と呼ぶかもしれません。それはそれで、詩的であり、愛の極致として尊いことです。

さて、ダビデが「あなた」と呼んだ相手は天地創造の目に見えない神さまだったのです。彼は、信仰によって神を真近かに感じ、日々の出来事の中に神が共にいて、見守り、祝い、数々の恵みを与えてくださることをとても喜び、日々感謝したのです。

「めぐみ」とは、世の父親や母親が自分の子どもに一方的に必要なものを与え、かつ、見守る行為や思いです。神の愛は親の愛、特に母親の愛に例えられます。わが子のために、喜んで犠牲を払い、育て、訓育します。それが親というものです。

「喜び」とは受けた側の感謝の反応です。ただ、「願ひ通りになってよかった、よかった。」というばかりではなく、「ありがとう」の感謝の言葉と行為が返って来ると、恵みを施した親はますます子を愛するようになります。神も同じです。感謝をささげる時に、神はますますその人を慈しんでくださるのです。日常生活で感謝すべきことを数え上げてみましょう。

前理事長 池田公榮



10月より、遠藤美保が保育教諭として加わります。何卒宜しくお願いします。



10月の行事予定

7日(水)	運動会予行
10日(土)	第58回大運動会
11日(日)	市民体育祭(4・5才児)
13日(火)	振替休日
14日(水)	芋掘り
28日(水)	秋の遠足

11月の行事予定

4日(水)	おにぎりパーティー
8日(日)	国民文化祭
11日(水)	スーパーパーティー
19日(木)	誕生会(10・11月生まれ)



子どもの頃の呪縛から抜け出すには

山口 創 著

スキンシップにかかわる深刻な問題があります。スキンシップが大切だとわかってもしどうしてもできない。それどころか、虐待してしまうかもしれないと悩んでしまうお母さんもいるのです。

それは自分が子ども時代に虐待を受けたため、今も自分の性格に影を落としていて、かわいがられている赤ちゃんに強い嫉妬と憎しみを感じるというケースです。そんな自分だけが子をかわいがれるはずがないと悩んでいるのです。

これでは虐待の連鎖になってしまうかもしれません。でもこのように悩みの原因が自分の体験にあると自覚しているのは救いがあります。

手だてがないわけではありません。彼女のような人こそ、人との触れあひが必要です。

実際に私がみてきたケースですが、子育て支援のプログラムで母親同士でマッサージをしたり、ペアになって子育ての悩みを人に聴いてもらったりするだけで、泣き出すお母さんが少なからずいるのです。人に言えない悩みを打ち明けることで気持ちが楽になったのでしょう。

また、マッサージしてもらい人に受け入れてもらうことで、

自分を責めて自身を受け入れられない辛さが軽くなり、優しく背中をなでさせてもらうことで、人の温かさが身にしみてくるのです。その温かさは、親から受けた辛い経験で凍っていた自分の心を少しずつ溶かしてくれます。なぜなら人と触れあうことで愛情ホルモン・オキシトシンが脳に増えていくからです。

それを続けていくうちに少しずつ気持ちが変化していき、いつの間にか赤ちゃんへのわだかまりも消えていくでしょう。そうして赤ちゃんをかわいと思えるようになれば、愛おしいと心から感じられるようになればもう大丈夫です。

過去の呪縛から抜け出しつつあるということになるでしょう。

悩んでいる方は、このように解決の方向はあるのですから、悩みを悩みのままにしないでくださいね。

※「脳はだっこで育つ」より抜粋



共に自分を育てる時

運動会の時期が近づくと、朝夕が急に涼しくなり、秋の気配が深くなります。また、日中に気温が急に上がることもあるので、体調管理の難しい季節でもあります。二学期が始まり、あれよあれよという間に十月の音が聞こえてきました。これからたくさん行事に忙しい日々が続きますが、子どもたちの笑顔と笑い声が私たちを支えてくれるので、また一緒に頑張れるのです。

さて、幼保連携型認定こども園の大切な役割の一つに、「子育て支援」があります。幼児期における子育て支援はどのようなべきかを検討し実践していかなくてはならないと考えています。本園は、以前から「こひつじクラブ」「親子ふれあい遊び」「体験保育」「園庭開放」を実施してきました。新制度前の昨年度からは、これに「ベビーマッサージ」と「放課後児童クラブ」が加わりました。スタッフの確保も難しい状況ですが、この地で、子どもを産み育てることに喜びを持つことに、少しでもお役に立てればと願っています。また、これらと共に、自主活動の「手づくりママ」や「おやち」たちの活動も始まっています。このような活動に加えて、地域のお年寄りやプレママやパパである中高生との交流も必要ではないかと考えています。そのためには、子どもたちや親子の体験空間として、子育て支援や地域交流の場としての拠点施設が求められます。行政の支援施策も大切な事業ですが、我々民間にしかできないこともあるように思われます。

数年来温めてきたこのような思いが、現実のものとなってきました。県産の木材を使った木造建築物に対する県の補助金を一部いただくことになったのです。めいろうこども園の敷地内に置きますが、学園共有の施設として活用します。とても嬉しく思っています。しかし、学校法人の本分は言うまでも無く幼児教育・保育です。車の両輪としてこれらが連携し活性化していくには、ハードよりも中身のソフトを魅力あるものにしなければなりません。今後、詳細を提示してきますので、様々なアイデアの提案やご協力を宜しく願っています。

子どもたちがもつとも活発な活動を展開する実りの時期です。ゆつくりと周囲の自然を観察しながら落ち着いた時間を満喫したいと思います。今月は身も心も「きもちがいい」時。運動会や芋掘り、そして遠足など屋外での活動を通して、いのちはずむ時となることでしょう。

学園長

まりすこどもえん まりすこどもえん

まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん